

経費の削減や作業の軽減が期待できる「高密度播種苗」の栽培上のポイントを解説したマニュアルを作成しました。

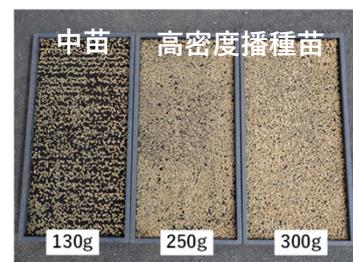
研究成果の概要

1 背景・目的

水稻高密度播種苗栽培では必要苗箱数が慣行の中苗栽培より大幅に少なくなるため、育苗に要する経費の削減や播種・田植え作業の軽減に繋がるほか、育苗ハウスを新設せずに作付面積を拡大することができます。寒冷地である青森県に対応した水稻高密度播種苗栽培の安定生産技術を確立するため、育苗技術や生育の特性把握について検討しました。

2 内容

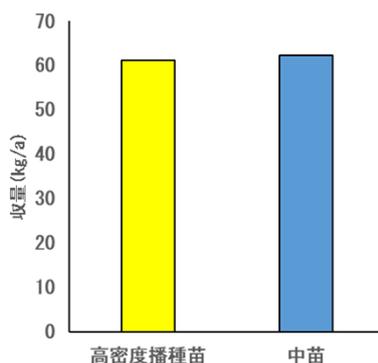
- 慣行の中苗では播種量が130g程度、育苗日数は30～35日程度ですが、高密度播種苗は箱当たりの乾籾播種量を250～300gと多くし、育苗日数は20～25日程度で10日以上短くなります。
- 厚播きした苗を田植機で小さく掻き取って移植するため、中苗よりも必要苗箱数が減少し、育苗経費削減や田植え作業が軽減されます。
- 高密度播種苗は中苗より草丈が約4cm短く、葉齢が1枚ほど少なく、苗質を表す充実度（苗の地上部の風乾重÷草丈）が低いという特性があります。
- 農林総合研究所における試験事例（平成30～令和2年度）では、高密度播種苗栽培の収量と玄米品質は中苗栽培と同等でした。



播種量の違い

移植苗の生育

苗の種類	草丈 (cm)	葉齢 (数)	充実度 (mg/cm)
高密度播種苗	14.0	2.1	0.7
中苗	18.2	2.9	1.2
中苗との差・比	-4.2	-0.8	63%



10a当たりの収量



「水稻高密度播種苗栽培マニュアル」

3 活用等

水稻高密度播種苗栽培のポイントをまとめた「水稻高密度播種苗栽培マニュアル」を農林総合研究所のホームページで公表していますので、ダウンロードしてご利用ください。

関連情報

- 「水稻高密度播種苗栽培マニュアル」は、令和6年3月に「はれわたり」及び飼料用米品種「ゆたかまる」の試験結果を追記し、Ver.2に改訂しています。

